

平成25年5月29日
第2回常任委員会決定

別冊 3

第76回国民体育大会 競技施設基準



第76回国民体育大会
三重県準備委員会

第76回国民体育大会競技施設基準について

第76回国民体育大会の開催準備を計画的かつ円滑に推進するために定めるものである。

- 1 この競技施設基準は、国民体育大会開催基準要項細則第2項に規定する施設基準および各競技の競技規則等ならびに先催県の例等に基づき、競技場の規模を中心に定めるものである。
- 2 大会運営上および管理上必要な施設及び面積等については、省略してあるものがあり、さらに関連するスペース、施設の確保が必要になる場合がある。
- 3 この競技施設基準に定めるもののほか、細部については、それぞれ各競技の競技規則等による。
- 4 この競技施設基準は、県および開催市町等において、各中央競技団体等と調整を行い、弾力的な運用ができるものとする。
- 5 この競技施設基準の内容については、国民体育大会開催基準要項および各競技の競技規則等の改訂にともない、随時変更するものとする。

《 競技施設基準の見方 》

○「基準」および「摘要」欄

国民体育大会開催基準要項細則に定められている事項。

○「基準の主な内容」欄

競技場に関して各競技の競技規則等に定められているもので主な事項。

○「配慮すべき事項」欄

各競技の競技規則等には定めはないが、運営上、競技会の安全な開催および先催県の例等から検討が必要と考えられる事項。

○「先催県の事例」欄

先催県における競技施設基準の弾力的な運用事例。

目 次

		(ページ)
1	陸 上 競 技	1
2	水 泳	2
3	サ ッ カ ー	4
4	テ ニ ス	5
5	ボ ー ト	6
6	ホ ッ ケ ー	7
7	ボ ク シ ン グ	8
8	バ レ ー ボ ー ル	9
9	体 操	10
10	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	11
11	レ ス リ ン グ	12
12	セ ー リ ン グ	13
13	ウ エ イ ト リ フ テ ィ ン グ	14
14	ハ ン ド ボ ー ル	15
15	自 転 車	16
16	ソ フ ト テ ニ ス	17
17	卓 球	18
18	軟 式 野 球	19
19	相 撲	20
20	馬 術	21
21	フ ェ ン シ ン グ	22
22	柔 道	23
23	ソ フ ト ボ ー ル	24
24	バ ド ミ ン ト	25
25	弓 道	26
26	ラ イ フ ル 射 撃	27
27	剣 道	29
28	ラ グ ビ ー フ ッ ト ボ ー ル	30
29	山 岳	31
30	カ ヌ ー	33
31	ア ー チ エ リ ー	35
32	空 手 道	36
33	銃 剣 道	37
34	ク レ ー 射 撃	38
35	な ぎ な た	40
36	ボ ウ リ ン グ	41
37	ゴ ル フ	42
38	ト ラ イ ア ス 口 ン	43
39	高 等 学 校 野 球	44

競技名	陸上競技	競技番号	1
基準	日本陸上競技連盟公認の1種競技場 1	摘要	1周400mのサブトラック 1 投てき練習場 1

基準の主な内容

【第1種公認陸上競技場】

1 新設(多目的)の場合

- | | |
|--------------|---|
| ①1周の距離 | 400m |
| ②競走路 | 8レーンまたは9レーンとし、1レーンの幅は1m220とする。
走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートライン付近の厚さは18mm以上とする。 |
| ③距離の公差 | +1/10,000以内 |
| ④3,000m障害物 | 水壕は、レーンの内側または外側に設置する。 |
| ⑤跳躍場及び各種投てき場 | 仕様に示す数や全天候舗装の厚さとする。
ハンマー投と円盤投のサークルは兼用でもよい。 |
| ⑥高齢者、身障者席 | 車椅子席を設置する。 |
| ⑦用器具庫 | 2カ所以上とし、合計面積は500㎡以上とする。 |
| ⑧夜間照明設備 | 1m220の高さで平均照度1,000ルクス程度とする。
また、フィニッシュラインは1,500ルクス以上を確保する。 |
| ⑨電光掲示板 | 設置することが望ましい。国民体育大会の会場では、仮設でもよい。 |
| ⑩監視カメラ | 大規模競技会では、12箇所必要とする。 |
| ⑪観客の収容数 | 15,000人以上(芝生を含む)とする。
メインスタンドは、少なくとも7,000人程度で屋根付きとする。 |
| ⑫雨天走路 | メインスタンドまたはバックスタンド側に必要とする。 |
| ⑬補助競技場 | 第3種公認陸上競技場とする。 |
| ⑭投てき練習場 | 1周400mの全天候舗装で6レーン以上とし、直走路は8レーンとする。
大規模競技会では主競技場の至近に設置する。 |

2 既設の場合

- | | |
|--------------|--|
| ①1周の距離 | 400m |
| ②競走路 | 8レーンまたは9レーンとする。
走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートライン付近の厚さは18mm以上とする。 |
| ③距離の公差 | +1/10,000以内 |
| ④3,000m障害物 | 水壕は、レーンの内側または外側に設置する。 |
| ⑤跳躍場及び各種投てき場 | 仕様に示す数や全天候舗装の厚さとする。
ハンマー投と円盤投のサークルは兼用でもよい。 |
| ⑥高齢者、身障者席 | 車椅子席を設置する。 |
| ⑦用器具庫 | 2カ所以上とし、合計面積は500㎡以上とする。 |
| ⑧夜間照明設備 | 設備を必要とし、1m220の高さで平均照度が1,000ルクス程度とする。
また、フィニッシュラインは、1,500ルクス以上を確保する。 |
| ⑨電光掲示板 | 設置することが望ましい。国民体育大会の会場では、仮設でもよい。 |
| ⑩監視カメラ | 大規模競技会では、12箇所必要とする。 |
| ⑪観客の収容数 | 15,000人以上(芝生を含む)とする。
メインスタンドは、少なくとも7,000人程度で屋根付きとする。 |
| ⑫雨天走路 | メインスタンド又はバックスタンド側に必要とする。 |
| ⑬補助競技場 | 第3種公認陸上競技場とする。 |
| ⑭投てき練習場 | 1周400mの全天候舗装で6レーン以上とし、直走路は8レーンとする。
大規模競技会では主競技場の至近に設置する。 |

((公財)日本陸上競技連盟「第1種・第2種公認陸上競技場の基本仕様」から抜粋)

(配慮すべき事項)

- 投てき練習場の広さは7,000㎡(100m×70m)を目途とする。

(先催県の事例)

競技名	水泳競技(その1)	競技番号	2
-----	-----------	------	---

基準	日本水泳連盟公認のプール 1 競泳用50mプール 1 (隣接して25m補助プール 1) 2 飛込、シンクロナイズドスイミング用 プール 1(飛込用として10mの固定 台と3mの飛板を備えていること。) 3 水球用プール 1	摘要	左記1、2、3は、至近距離にある異なった 会場であることが望ましい
----	---	----	--------------------------------------

基準の主な内容

競技プールは次のとおりとする

1 競泳用プール【公称50m国内基準競泳プール】

- ①長さ 50.02m(タッチ板を両端壁に設置する場合)
- ②幅 17.90m以上
- ③水深 1.35m以上
- ④コース数・コース幅 7コース以上、コース幅は1コース2.50m
- ⑤プール両端の余裕 0.20m以上で休息だなの幅以上
- ⑥自動審判計時装置 A級またはAA級を常設しなければならない。
- ⑦練習施設 事情の許す限り50mプールを併設することとし、設置できないときは25mプールでも可とする。ただし、競技者が容易に利用できる練習施設が近隣にある場合は、これにかえることができる。

2 飛込用プール【国内基準飛び込みプール】

- ①飛板 1m及び3m 各2基
- ②飛込台 5m、7.5m、10m 各1基
- ③水深 10m飛込台の基線上の水深4.50m
- ④プールの方向 屋外プールの場合にあっては、飛板及び飛込台は北向きに設置されることが望ましい。
- ⑤波立て装置 競技者の水面確認を容易にするために、飛込施設の下に水面攪拌装置を設置しなければならない。
- ⑥練習施設 1m飛板…競技用とは別に2基
飛込練習台…飛込台と異なる側に助走及び踏切の練習用として、最低1基

3 シンクロナイズドスイミング用プール【国内基準シンクロナイズドスイミング競技プール】

(1)フィギュアゾーン

- ①競技区域 10.0m×3.0mの長方形の区域を2カ所設けなければならない。
- ②水深 ゾーンのうち、一方は水深3.0m以上、他方は水深2.5m以上でなければならない。
- ③設置要領等 ※【図1】に示す。

(2)ルーティンゾーン

- ①競技区域 最低12.0m×25.0mの長方形区域を1カ所設ける。
(一辺12.0mの正方形区域含)
- ②水深 2.0m以上。ただし、一辺12.0mの正方形の区域の水深は3.0m以上とする。
- ③設置要領等 ※【図2】に示す。
フィギュアゾーンは、ルーティンゾーン内に設けることができる。

(3)その他

○プールの水は水底まではっきり見えるよう透明でなければならない

4 水球用プール【国内基準公認水球プール】

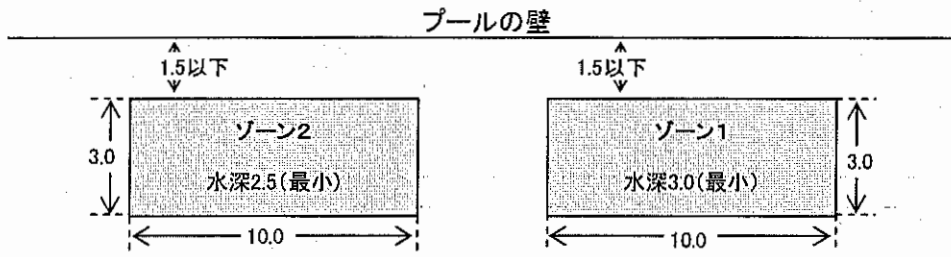
- ①競技使用水面(男子水球) 長辺(ゴールライン間)30.0m 短辺20.0m
- ②水深 2.00m以上とする
- ③バウンダリーライン バウンダリーラインは、ゴールラインの後方(外側)0.30mの位置に設置するものとする。
- ④ゴールライン 各ゴールラインとプール壁との距離は、1.66m以上とする
- ⑤設置要領 ※【図3】に示す。
〔(公財)日本水泳連盟プール公認規則から抜粋 2010.4.1施行〕

※第6章補則 第126条③

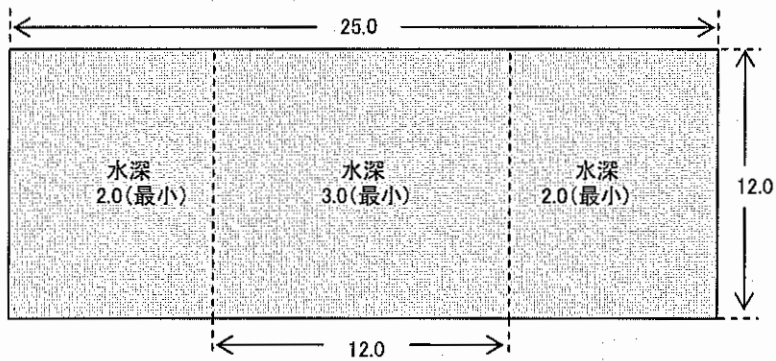
旧規則のもとで公認または認定を受けたプールについては、当分の間、当該プールの公認または認定を受けたものとみなし、再公認または再認定を与えるものとする。

基準の主な内容

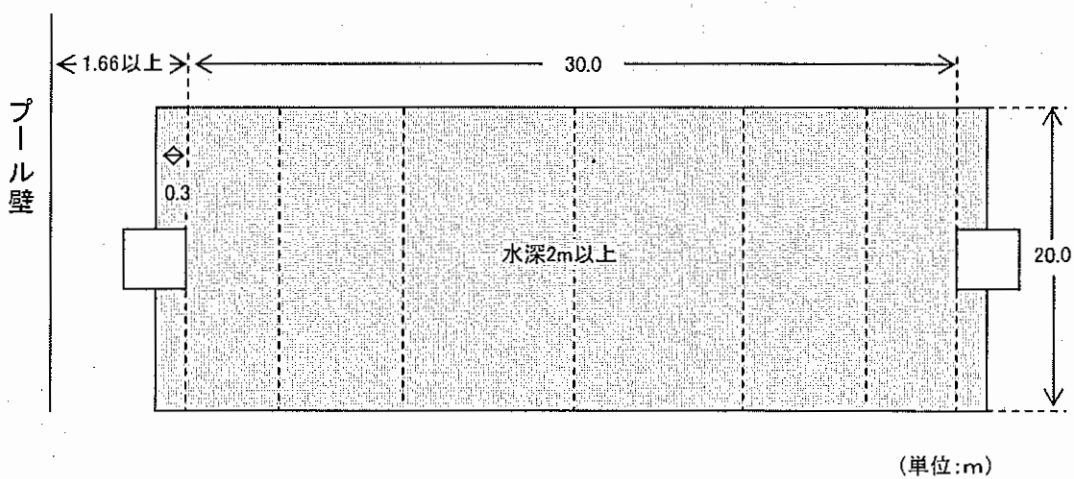
○【図 1】シンクロナイズドスイミング《フィギアゾーン》



○【図 2】シンクロナイズドスイミング《ルーティンゾーン》



○【図 3】水球用プール



〔(公財)日本水泳連盟プール公認規則から抜粋 2010.4.1施行〕

(配慮すべき事項)

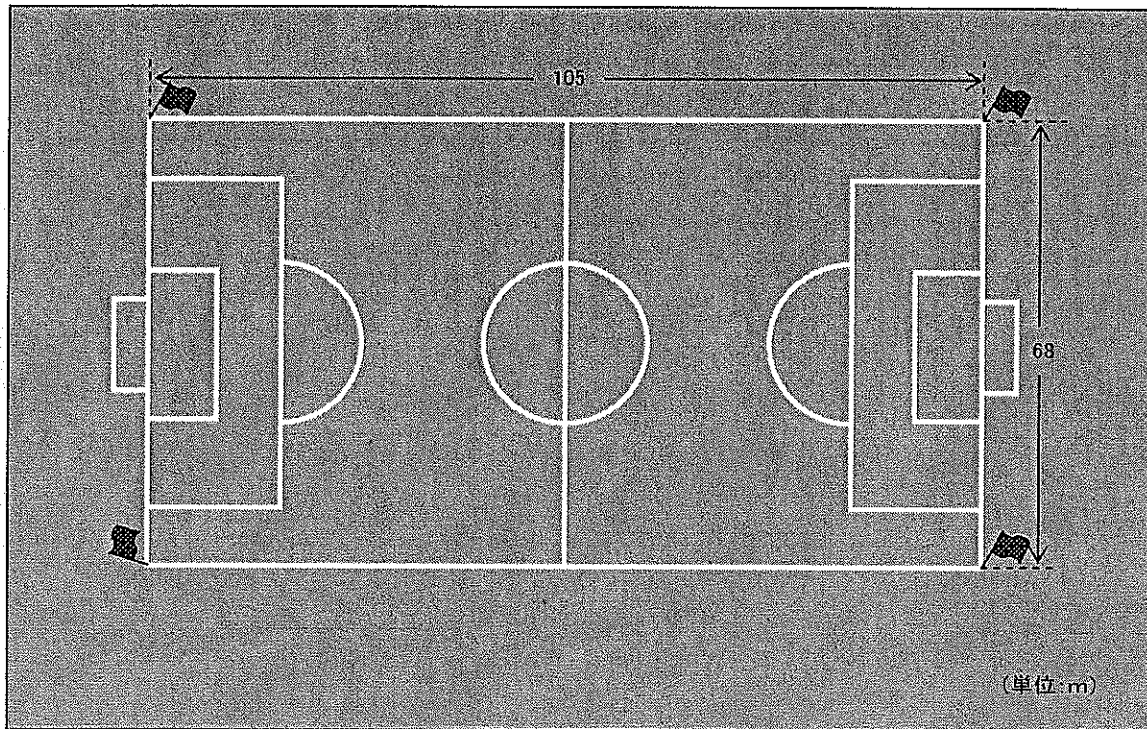
○ビデオ判定装置の設置が望ましい。

(先催県の事例)

競技名	サッカー	競技番号	3
基準	規定の競技場 芝生7面以上	摘要	2会場地以上に分かれてもよい。 原則、天然芝とするが、全3面までJFA公認人工芝ピッチの使用を可能とする。

基準の主な内容

フィールドは、次のとおりとする。



○日本国内での国際試合および国民体育大会等の全国的規模の大会でのフィールドの大きさは105m×68mとする。((公財)日本サッカー協会理事会決定 1985.11.21)

((公財)日本サッカー協会「サッカー競技施設規則」から抜粋)

(配慮すべき事項)

- フィールドから障害物までの距離は、4m以上が望ましい。
- 競技運営上、成年男子・女子・少年男子を単位として、最大3会場地に分けて開催する。
- 各種別ごとに必要な競技会場の面数は、同一会場内又は近接する会場とし、次のとおりとする。
成年男子(天然芝3面以上)、女子(天然芝3面以上)、少年男子(天然芝4面以上)
- 競技会場については、上記のとおり天然芝使用を原則とするが、人工芝を使用する場合は、各種とにJFA公認人工芝ピッチ1面に限り使用可能とする。
- 競技会場近隣に、練習会場を成年男子及び女子は5面以上、少年男子は9面以上確保する。
(芝又はクレイ)

(先催県の事例)

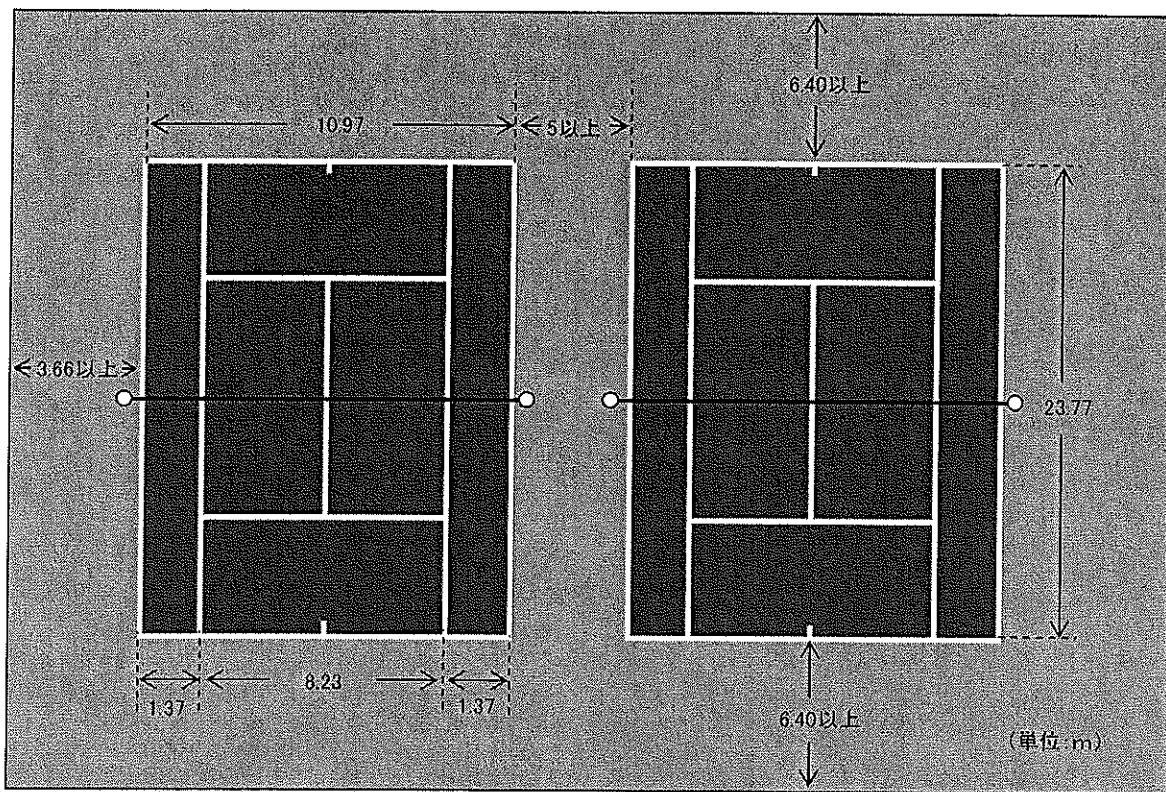
競技名 テニス

競技番号 4

基準	規定のコート 20面	摘要	2会場地に分かれる際は24面とする。
----	------------	----	--------------------

基準の主な内容

コートは次のとおりとする。



- 配置：メインコートは最低4面とするが、他は1ブロックあたり2面以上のものに分散してもよい。但し、競技運営上、競技本部より見通しのできることが望ましい。
- 大きさ等：コート間5m、ベースラインよりフェンスまで6.4m以上を基本とする。
(テニスコートの建設マニュアルによる他、テニス規則による。)
- コートサーフェス：全天候型が望ましいが、既設のものを使用する場合はクレイコート等でもよい。クレイコート等の場合はコート間に散水設備を設ける。
- コート照明：全テニスコート対象に設置する。但し止むを得ない事情のある場合は、メインコートのみでもよい。コートの照度は、コート面から1mの高さで500ルクス以上を推奨する。

〔(公財)日本テニス協会「国体テニス競技の施設基準に関する細則」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

- コートの方位は南北5°に設計することが望ましい。
- 会場地は、競技運営上、成年男子・成年女子・少年男子・少年女子を単位として、2会場地とする。
(1会場地で2種別を実施)
- 競技運営上、同一会場内に、規定のコート12面以上が確保できる。

(先催県の事例)

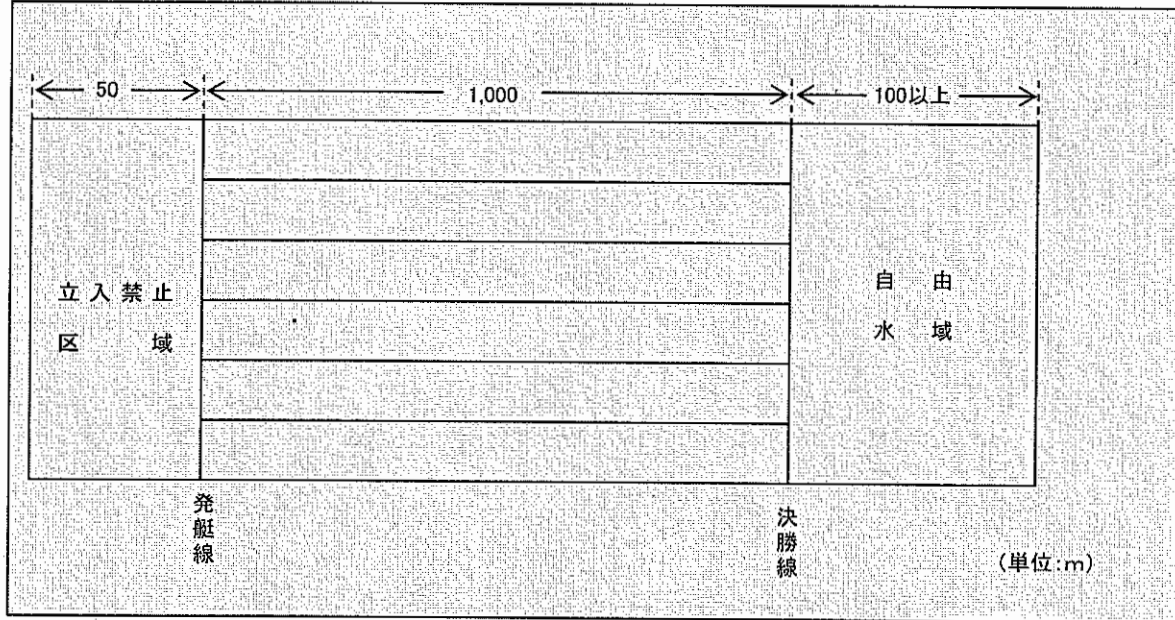
競技名 ボート

競技番号 5

基準	1,000mの5コースを有する水路 1、 艇庫 1(仮設でもよい) 回漕用として1コース程度を付設する 水路	摘要	
----	---	----	--

基準の主な内容

コースは次のとおりとする。



- 競技は、B級以上コースで行う。
- 決勝線の後方に、長さ100m以上の自由水域を設けなければならない。
- コースの各レーンは互いに平行し、各レーンの幅は標準13.5m、最小限12.5m、最大限15mとする。
- 競漕レーンの外境と岸、その他固定構築物との間には、5m以上の自由水域を設けなければならない。
- レーンの水深は、各レーンの深さが均等でない場合は3m以上、各レーンの深さが均等な場合は2m以上とする。
- コースには、流れのないことを原則とするが、流れのあるときには競漕レーンの全幅について同一の速さであり、かつ流速20cm/秒を越えないものとする。

〔(公社)日本ボート協会「競漕規則」及び(公社)日本ボート協会「コース規格規定」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

(先催県の事例)

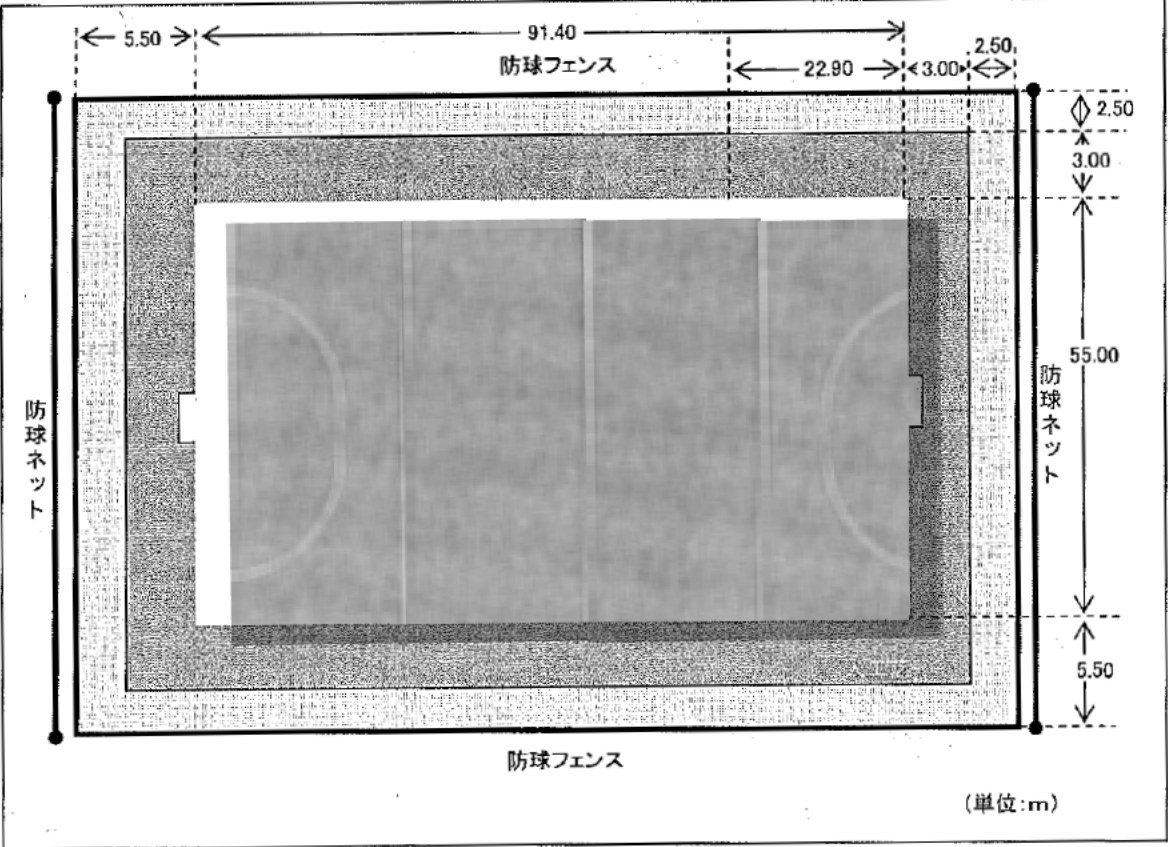
競技名 ホッケー

競技番号 6

基準	規定の競技場2面	摘要	
----	----------	----	--

基準の主な内容

競技場は次のとおりとする。



〔(公社)日本ホッケー協会国民体育大会ホッケー競技場施設基準から抜粋〕

(配慮すべき事項)

- 競技場は、人工芝2面とする
- 防球フェンスは、高さ30cm×長さ111.4mと高さ30cm×長さ65mのものを1対。
- 防球ネットは、高さ5m×長さ40mのものを1対。ただし、ゴール後方に目隠しのために高さ3m×20mの防砂ネットを付ける。

(先催県の事例)

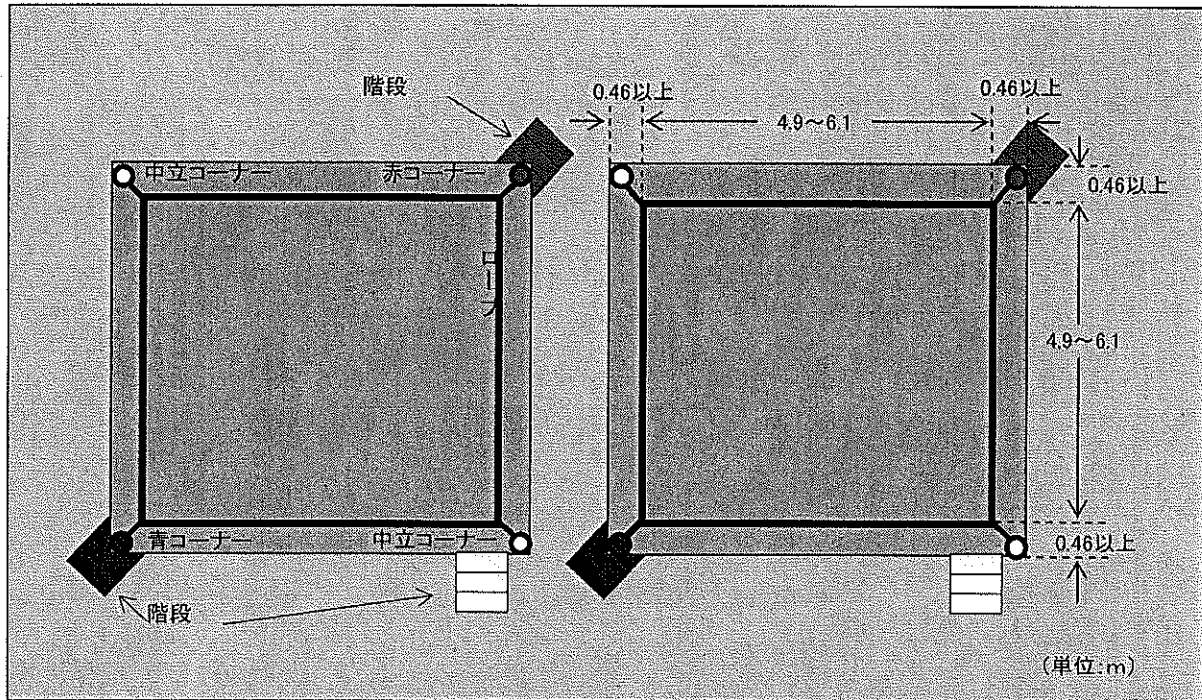
競技名 ボクシング

競技番号 7

基準	規定のリング2面を設置することができる体育館 1 (床面積:縦40m以上×横35m以上) 検診、計量会場、医療室、グローブ室、選手練習場などの付帯施設	摘要	
----	---	----	--

基準の主な内容

リングは次のとおりとする。



○リングの広さはロープ内が4.9m以上6.1m以下の正方形で、ロープの外側は、少なくとも46cm以上なければならない。床の高さは91cm以上、122cm以下を原則とする。

○床は水平で厚さ1.3cmから1.9cmのフェルト又は同じ程度の柔軟なものを敷き、キャンパスで全床を覆う。

○リングロープは、3本又は4本とする。3本の場合は床から40cm、80cm、130cmの高さに、4本の場合は、床から40cm、70cm、100cm、130cmの高さに、太さ3cmから5cmのロープを四隅の柱から強く張ってかこむ。

○ロープの角にはパッドをあてがい、3cmから4cm幅のキャンパス布2本でロープを等間隔につなぐ。

○リングに3台の階段を備える。2台は選手とセカンドが使用するために赤と青のコーナーに、また1台はレフリーと医師が使用するために中立コーナーに備える。

〔(一社)日本アマチュア・ボクシング連盟「日本アマチュア・ボクシング競技規則」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

○リングの照度は1,600ルクス以上が望ましい(照明は仮設で可)。

(先催県の事例)

○床面積縦40m以上×横35m以上⇒床面積縦36m×横30m

競技名 バレーボール

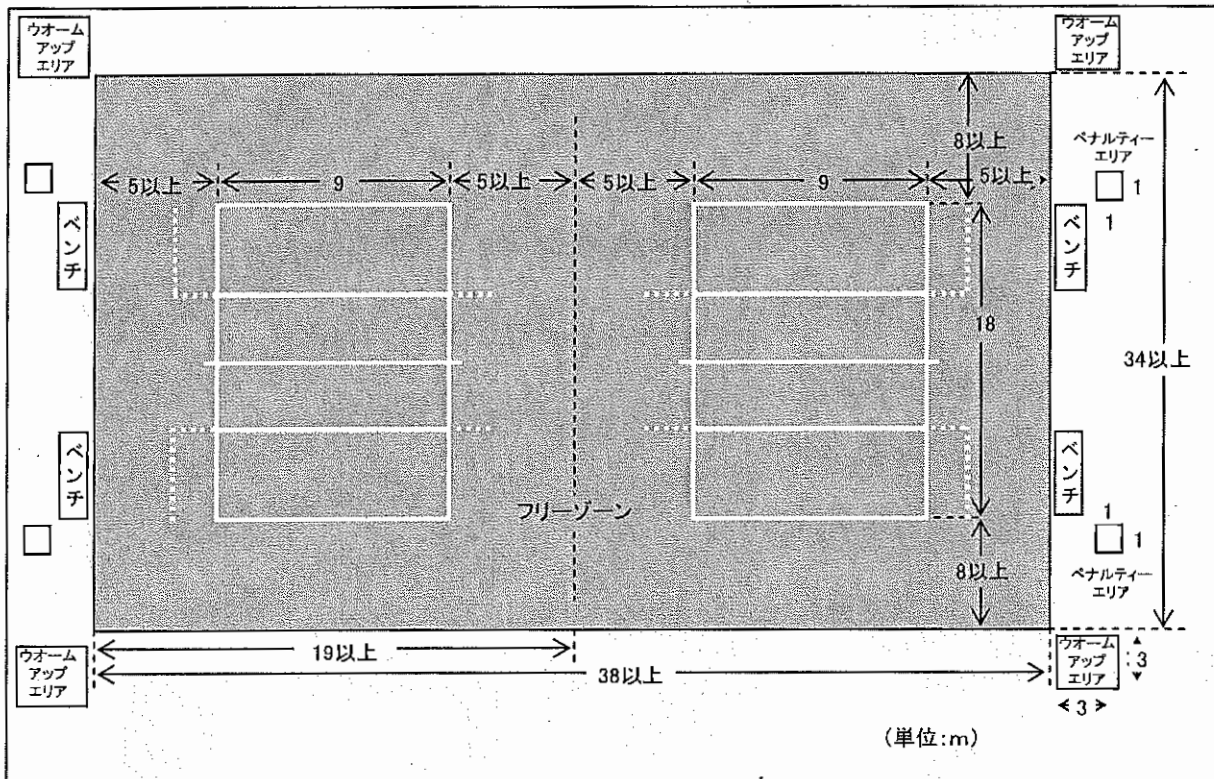
競技番号 8

基準 規定の屋内コート8面

摘要 2会場地以上に分かれてもよい。体育館の天井の高さは10m以上が望ましいが、7m以上あればよい。

基準の主な内容

コートは次のとおりとする。



- (公財)日本バレーボール協会主催の競技会では、フリー・ゾーンは最小限サイド・ラインから5m、エンド・ラインから8mなければならない。
- 支柱はサイド・ラインの外側から1mの位置に設置される。
- 自由競技空間(競技場の上方に障害物が一切ない空間)は、競技場の表面から12.5m以上なければならない。
- 競技場の明るさは競技場の表面から1mの高さで、1,000~1,500ルクスでなければならない。
- 3×3mの大きさのウオーム・アップ・エリアがフリー・ゾーン外側の両方のベンチ側のコーナーに設けられる。
- ペナルティー・エリアは1×1mの大きさで、それぞれのエンド・ライン延長線の外側のコントロール・エリア内に設けられ、2つの椅子が置かれる。
- アタック・ラインは、サイド・ラインから20cm間隔で、幅5cm、長さ15cmの5本の破線により、全長1.75mにわたって延長される。
- コーチ・レストリクション・ライン(アタック・ラインの延長線1.75mの位置からエンド・ラインの延長線まで、サイド・ラインと平行に引かれた破線)は、監督が指示できるエリアを区画するもので、20cm間隔で長さ15cmの破線で引かれる。

〔(公財)日本バレーボール協会競技規則から抜粋〕

(配慮すべき事項)

- 競技運営上、同一競技会場内に2面以上とれる。
- 競技運営上、成年男子・成年女子・少年男子・少年女子を単位として、最大4会場地とする。
- 競技会場に隣接又は近接する練習会場が、次のとおり確保できる。
成年男子(4面以上)、成年女子(4面以上)、少年男子(6面以上)、少年女子(6面以上)

(先催県の事例)

- エンドラインから8m以上、サイドラインから5m以上⇒不足エリアに安全対策として防御ラバー設置

競技名	体 操
-----	-----

競技番号	9
------	---

基準	規定の各器具を設置することができる 体育館 1	摘要	2会場地に分かれてもよい。
----	----------------------------	----	---------------

基 準 の 主 な 内 容

競技場は次のとおりとする。

○体操競技

・器械・器具は、(公財)日本体操協会の「器械・器具検定規定」に基づく、体操競技用検定品とする。

○新体操

・競技場は中央の約50m×30mの面積を競技エリアとし、最低14m以上の高さがなくてはならない。

・演技面は13m×13mとし、そのまわりには最低1mの安全地帯を設ける。

なお、演技台を設ける場合は、2mとする。

・演技面を2面設置する場合は、その間の距離を最低2mとする。

〔(公財)日本体操協会 新体操 国内規則から抜粋〕

(配慮すべき事項)

○体操競技の競技場の広さは、2,000㎡以上が望ましい。

○照度は、1,000ルクス以上が望ましい。

○2会場地とする場合は、競技運営上、体操と新体操を分けて実施する。

○体操競技は、近接した男女別の練習会場を確保することができる。

(先催県の事例)

競技名 バスケットボール

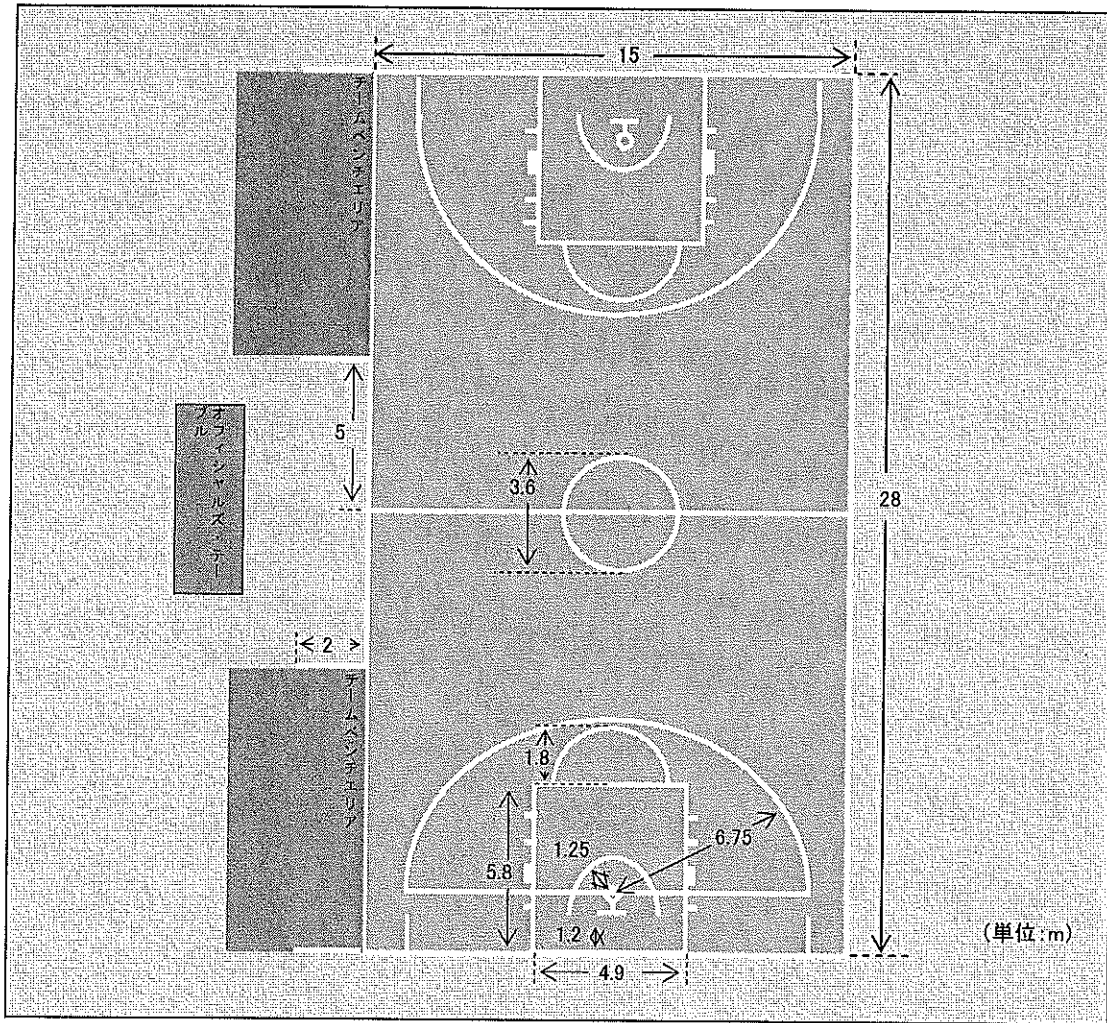
競技番号 10

基準 規定の屋内コート10面

摘要 近接であれば2会場以上に分かれてもよい。

基準の主な内容

コートは次のとおりとする。



○コートは、チーム・ベンチにすわっている人を含むすべての障害物から2m以上離れていなければならない。

〔(公財)日本バスケットボール協会「バスケットボール競技規則」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

- オフィシャル席をどちらのサイドにも設置可能にするために、また、プレーに障害のないようにコートの境界線から障害物までは5m以上が望ましい。
- コートの間隔は、7m以上が望ましい。
- 照度はコート面上1mの高さで700ルクス以上とし、コートの競技者が直接日光が当たらないよう採光することが望ましい。
- 競技会場は、運営上、隣接する最大4会場とし、成年男子、成年女子・少年女子、少年男子を単位とする。また、各種別において次の面数を確保できる。
成年男子(4面以上)、成年女子・少年女子・少年男子(2面以上)
- 練習会場は、競技会場に隣接又は近接するものとし、次の面数が確保できる。
成年男子(8面以上)、成年女子・少年女子・少年男子(2面以上)

(先催県の事例)

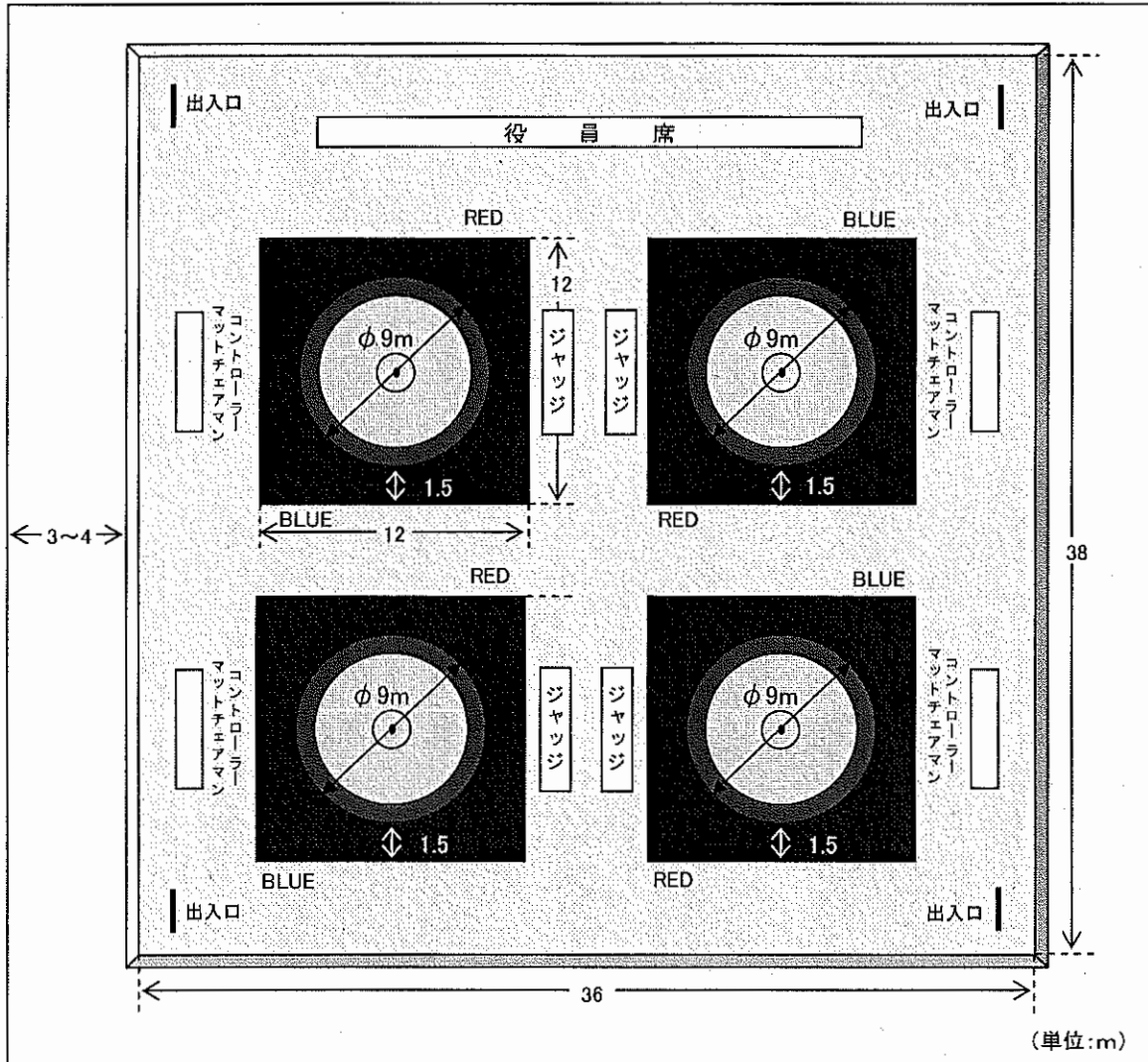
- 規定のコート10面⇒規定のコート7面で実施

競技名	レスリング	競技番号	11
-----	-------	------	----

基準	規定のマット4面を設置することができる 体育館 1	摘要	2会場に分かれてもよい。
----	------------------------------	----	--------------

基準の主な内容

競技場は次のとおりとする。



- マットは、9m直径の円形で、1.5m幅の同じ「高さ」の補助部分を有するものとする。
- マットは、「キャンパス」で覆わなければならない。
- マットに隣接するセーフティーゾーンは、柔らかい材質で完全に覆わなければならない。
- 観客の視野を確保するために、1.1mまでの高さの「プラットフォーム」上に、マットを設置するものとする。
- 競技会を円滑に運営するために、マット周辺には、適切な広さの、フローア残余部分を有しなければならない。

〔(公財)日本レスリング協会「レスリング・国際ルール」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

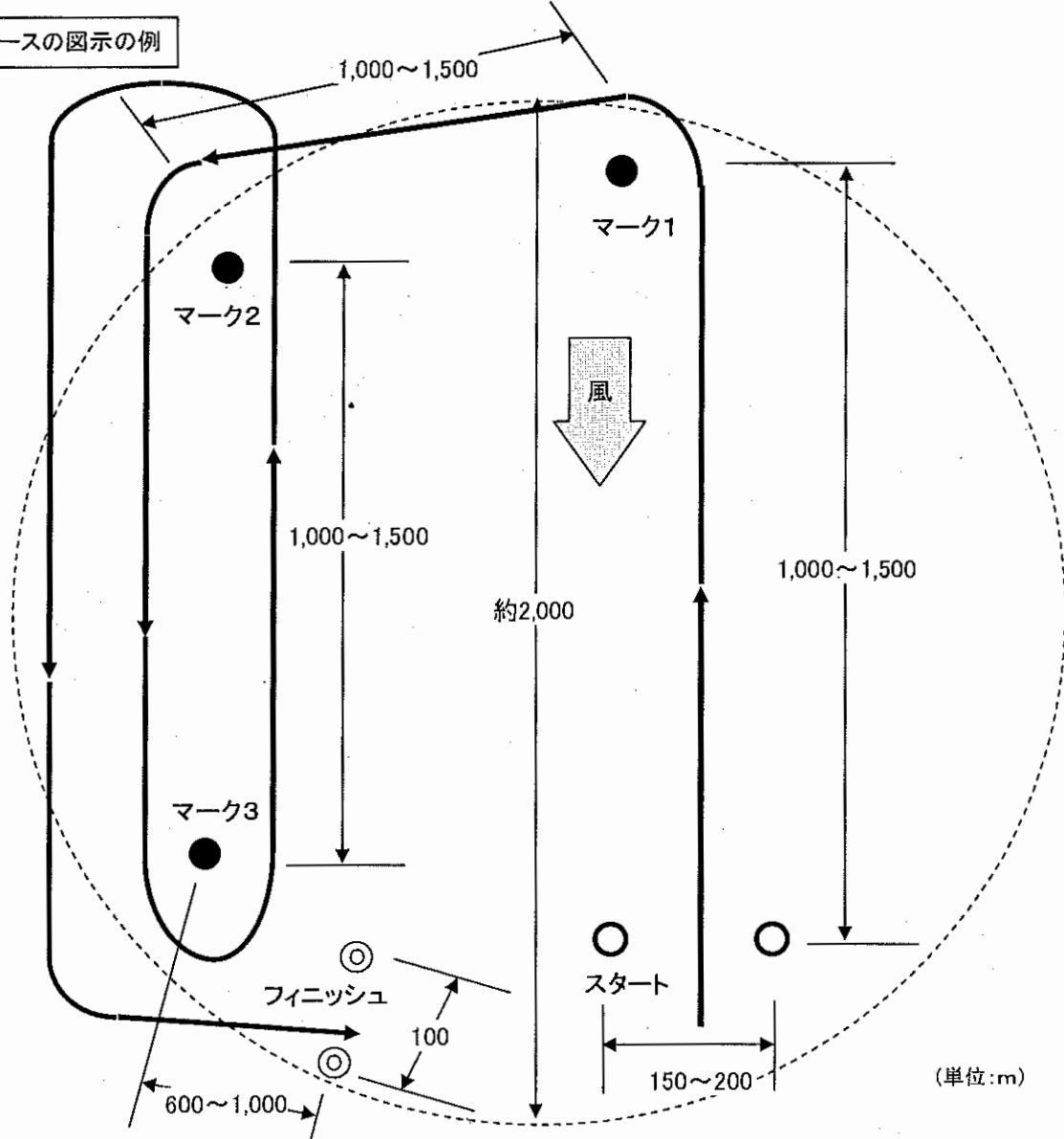
- マットの余地は4mが望ましい。

(先催県の事例)

基準	(公財)日本セーリング連盟が適当と認める 水域 1 (2海面) ヨットハーバー、艇庫及び競技運営棟 (仮設でもよい)	摘要	
----	--	----	--

基準の主な内容

コースの図示の例



〔(公財)日本セーリング連盟「2009-2012セーリング競技規則」参照〕

- (配慮すべき事項)
- 水域(競技海面)は、ハーバーの近くにあることが望ましい。
 - 競技海面の外周2kmに陸、島、河川がないことが望ましい。
 - ウインドサーフィン用はヨットハーバー内に人工芝を張るか、砂浜が隣接していることが望ましい。
 - 直径1.5km程度の競技海面が2つ取れること。
 - 定期航路と競技海面が重複しないこと。
 - 艇置き場として7,000㎡(350艇分)の広さが近接した場所を含め、確保できることが望ましい。

(先催県の事例)

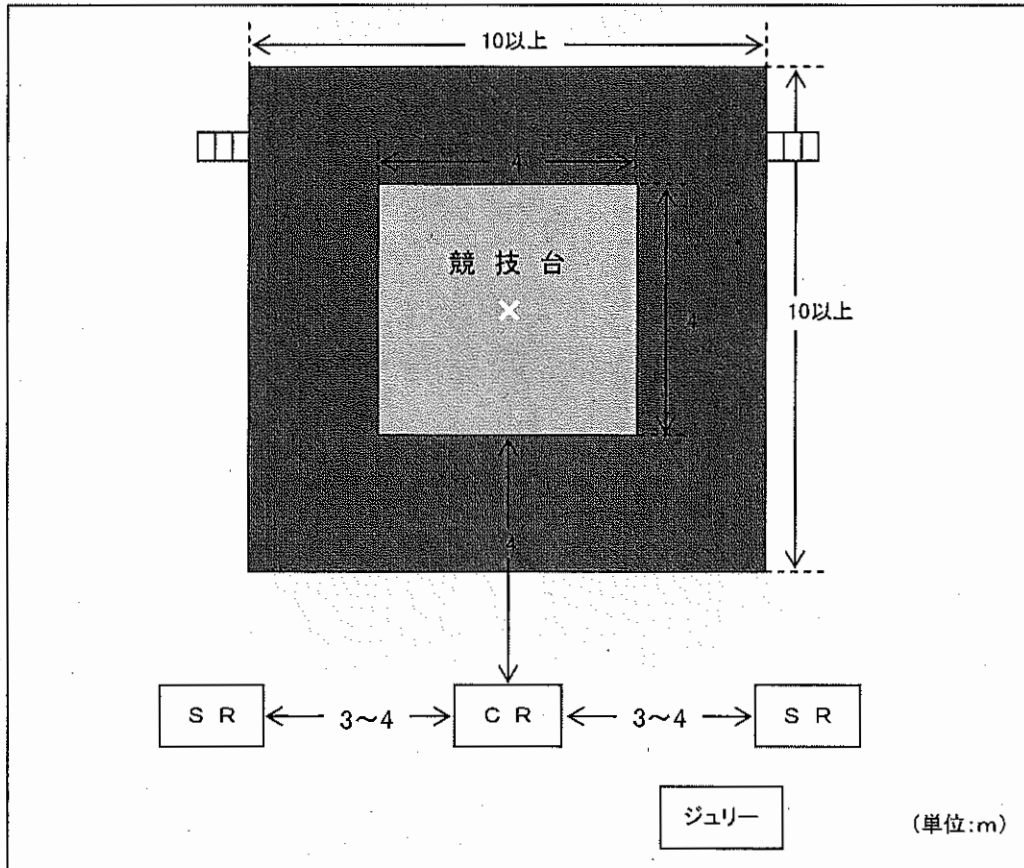
競技名 ウェイトリフティング

競技番号 13

基準	<ul style="list-style-type: none"> ・規定のプラットフォーム1面を設置することができる施設 1 ・ウォーミングアップ場を各施設に1 (8セット以上のバーベルとプラットフォーム) ・練習会場 1 (10セット以上のバーベルと練習用プラットフォーム) 	摘要	競技日程は、5日間とする。
----	---	----	---------------

基準の主な内容

競技場は次のとおりとする。



- 会場は、体育館または公会堂的なものとし、フロアの広さは1,000㎡～1,200㎡程度が望ましい。
- 会場の内外に練習場を設けなければならない。
- ステージの大きさは最低10m×10mとし、レフリー席およびジュリー席の床面から競技台表面までの高さは最大1mとする。
- 競技台は、厚さ5cm～15cm、広さ4m×4mの木材、プラスチック又は滑らない物質で覆われた平面競技台で、周囲の色と同一の場合は、最低15cm幅の色で縁どりしなければならない。
- 練習場には、場内放送のスピーカーおよび副記録掲示板を設け、ウォームアップ中の選手が競技の進行をたやすく知ることができるようにする。なお、テレビモニターを設置することが望ましい。
- 練習場の必要面数は、選手約6名～8名につき1面の割とする。

〔(一社)日本ウェイトリフティング協会「競技規則」及び「競技運営要領」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

(先催県の事例)

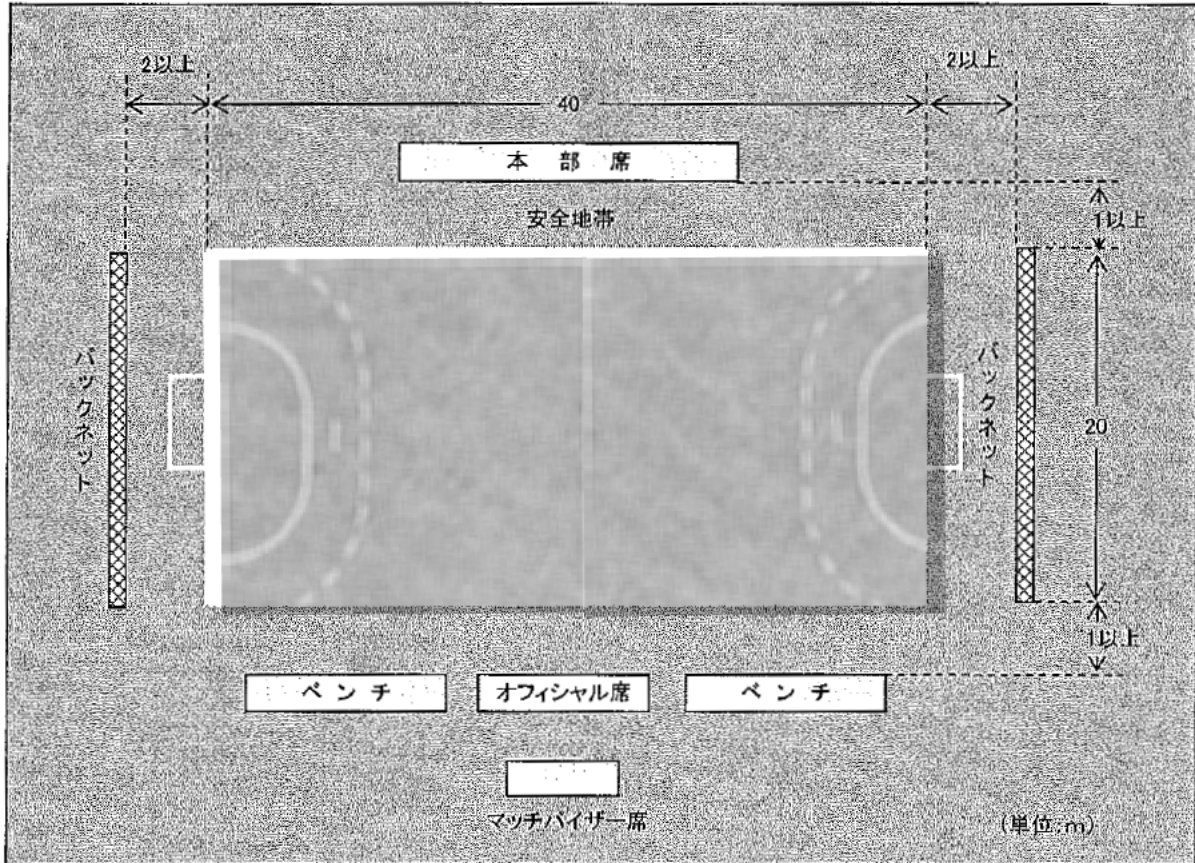
競技名 ハンドボール

競技番号 14

基準	規定の屋内競技場6面	摘要	2会場地に分かれてもよい。 体育館の天井の高さは10m以上が望ましいが、7m以上あればよい。
----	------------	----	---

基準の主な内容

競技場は次のとおりとする。



○コート周囲には、サイドラインに沿って幅1m以上、アウターゴールラインの後方に幅2m以上の安全地帯を設けなければならない。

〔(公財)日本ハンドボール協会「競技規則」及び「マッチバイザーの任務に関するガイドライン」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

- 屋内競技場の照度は、800ルクス以上が望ましい。
- サイドラインに沿って2m、アウターゴールラインに沿って3~5mの安全地帯を設けることが望ましい。
- 競技場を2面並列する場合は、コート間の距離は7m以上離すことが望ましい。
- 練習会場については、1会場地の場合は10面以上、2会場地の場合は各種別3面以上を確保できることが望ましい。

(先催県の事例)

- 屋内競技場6面⇒屋内競技場5面

競技名	自 転 車	競技番号	15
基準	規定の競技場 1 規定のロードレースコース (1周20km～30kmの周回ロードコース)	摘要	
基 準 の 主 な 内 容			
<p>1 競技場は次のとおりとする。</p> <p>①屋外競走路の周長 500m、400m、333.33m、285.714mおよび250mの5種類とし、競走路の幅員(路面実長)は7.0m～9.0mとする。</p> <p>②競走路の構造 競走路の路面は、木造板張りまたはコンクリート舗装、アスファルト舗装をもって施工し、競走を安全に行うために必要な硬度及び強度を有し、平坦でかつ均一な材質でなければならない。また、濡れた場合にもできるだけ速く乾くよう不透水性であることが望ましい。</p> <p>③安全地帯 競走路の内側に、ブルーバンドを含めて最小幅員3.5mの安全地帯を設ける。ここには危険な障害物を一切置いてはならない。</p> <p>④コーナー及びバンク 競走路は、長さ15m以上の直線部、最小曲率半径を有する円曲線部及びこれらの直線部と曲線部を結ぶ緩和曲線を有する。</p> <p>⑤直線部 通常6°～8°の横断勾配をつけるが、緩和曲線部の横断勾配により調整する。ただし、15°を越えないようにする。</p> <p>⑥胸壁又は金網柵 競走路と観客席を区画するために、競走路の外側に沿って85～100cmの高さの胸壁又は金網柵を設ける。</p> <p>⑦競走路の標示線 競走路の内縁から内側を最少走路の10%幅でブルーに塗り、これをブルー・バンドと称する。ブルー・バンドは競走には用いない。</p> <p>⑧補助走路 インフィールド又は保護地帯の内側にウォーミングアップ・クーリングダウンのための補助走路を設ける。</p> <p>⑨インフィールド 円滑な競技大会運営のために、インフィールドにいる人員が妨げにならないよう、インフィールドは走路より75～100cm低くすることが望ましい。</p> <p style="text-align: center;">〔(公財)日本自転車競技連盟「自転車競技場及び施設に関する基準要項」から抜粋〕</p> <p>2 ロードレースコースは、次のとおりとする。</p> <p>○競技大会の特性を考慮し、町から町への片道コース、大きく1周して戻るコース、環状コースを複数回周回するコース、P字または逆P字型の折り返し点のあるコースを選択する。</p> <p>○登坂路、降坂路とともに平坦な区間も含み、鉄道踏切、鋭角のカーブ、断崖、降り坂の急カーブ等の危険箇所のない舗装道路とする。また、選手団通過時に全面交通規制ができることが望ましい。</p> <p>○幅員は6m以上で、最後の1km地点からフィニッシュラインの後方100mまでは最小8mとし、10m以上であることが望ましく、視距離前後200m以上とする。ただし、道路外が直ちに建物壁、側溝、崖等になっている場合は配慮する。フィニッシュ地点は平坦もしくは上り坂とする。</p> <p>○1日ロードレースの場合は、スタート・フィニッシュが同一点であることが望ましい。</p> <p>○随行車両がフィニッシュラインを横切らずに駐車場へ入れる迂回路があること。</p> <p>○国民体育大会のロードレースコースは、1周20km～30kmの周回コースであることを原則とする。</p> <p style="text-align: center;">〔(公財)日本自転車競技連盟「ロードレースのコースに関する基準要項」から抜粋〕</p> <p>(配慮すべき事項) ○選手の安全対策(極端な道狭、落石等)に配慮したコース設定ができる。</p> <p>(先催県の事例)</p>			

競技名 ソフトテニス

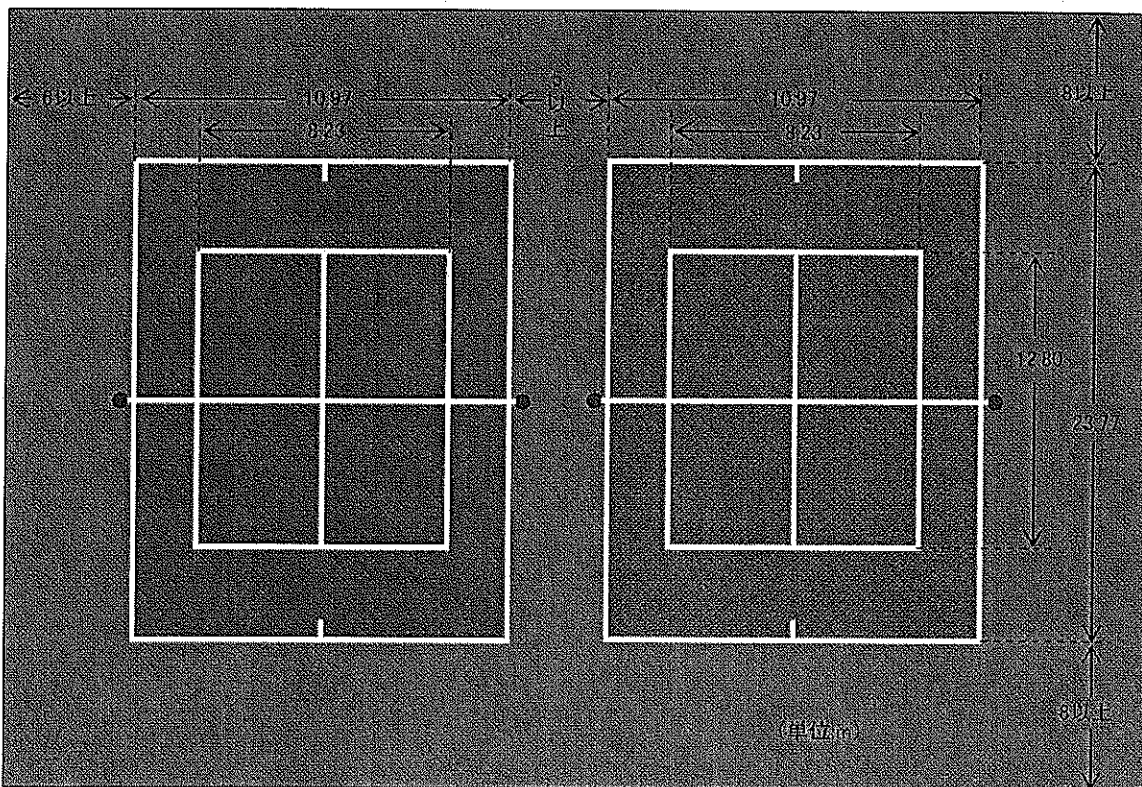
競技番号 16

基準 規定のコート16面

摘要 2会場地に分かれてもよい。

基準の主な内容

コートは、次のとおりとする。



○アウトコートはコート周囲のスペースで、ベースラインから後方に8m以上、サイドラインから外側に6m以上であることを原則とする。

○コートが2面以上ならば場合、隣接するコートにおいて接するサイドラインの間隔は5m以上であることを原則とする。

○コート及びアウトコートのサーフェスは、アウトドアではクレー、砂入り人工芝又は全天候型ケミカル等とし、インドアでは木版、砂入り人工芝、硬質ラバー、ケミカル等とする。

〔(公財)日本ソフトテニス連盟「競技規則」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

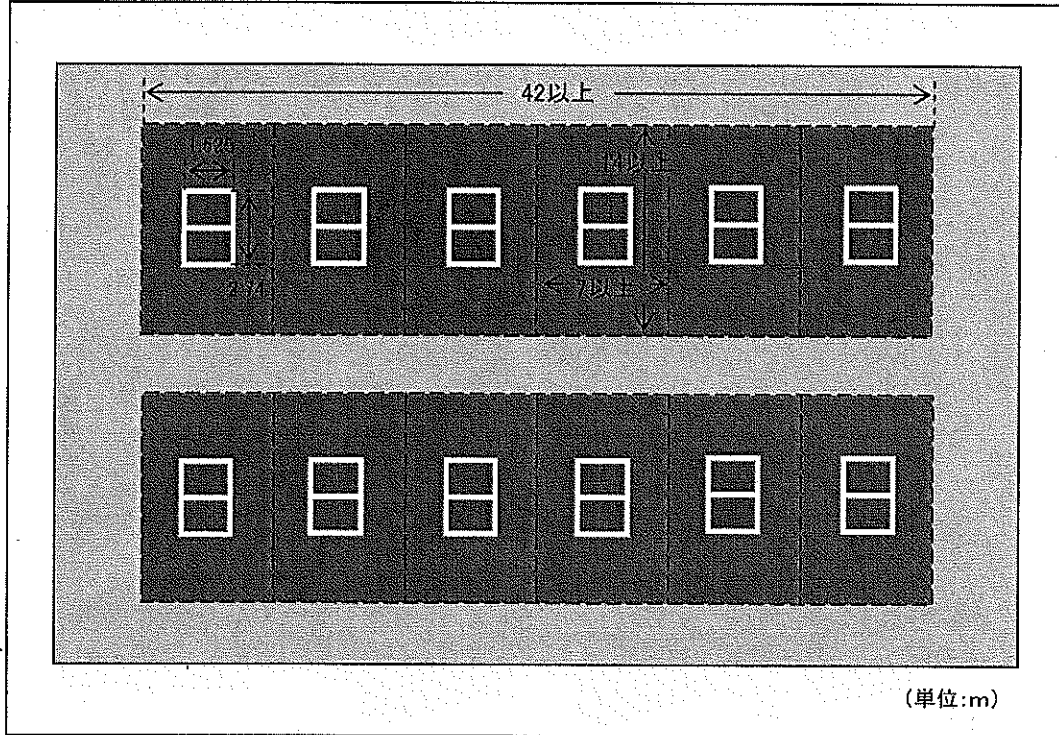
- 2会場地に分かれる場合は、競技運営上、1会場地で8面以上確保できる。
- ナイター照明があることが望ましい。

(先催県の事例)

基準	規定のコート12面(予備コート2面を含む)を設置することができる体育館 1	摘要	2会場地に分離して開催する場合は、各体育館に規定のコート8面を設置する。
----	---------------------------------------	----	--------------------------------------

基準の主な内容

競技場は、次のとおりとする。



- 競技領域は、長さ14m、幅7m、高さ5m以上の長方形でなければならない。
- 競技領域は、隣接の競技領域と観戦者から分ける高さ75cmまたは50cmの均一な濃色の「フェンス」で区切られていなければならない。
- プレーイング・サーフェスの高さで計った照度は、プレーイング・サーフェス全面にわたって1,000ルクス以上でなければならない。
- 照明源は床5m以上になければならない。
- 背景は、全般的に濃色で、明るい照明源または覆われていない窓を通す日光が含まれてはならない。
- 競技場の床は、明るい色又は明るく反射したり滑りやすいものであってはならない。

〔(公財)日本卓球協会「日本卓球ルール」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

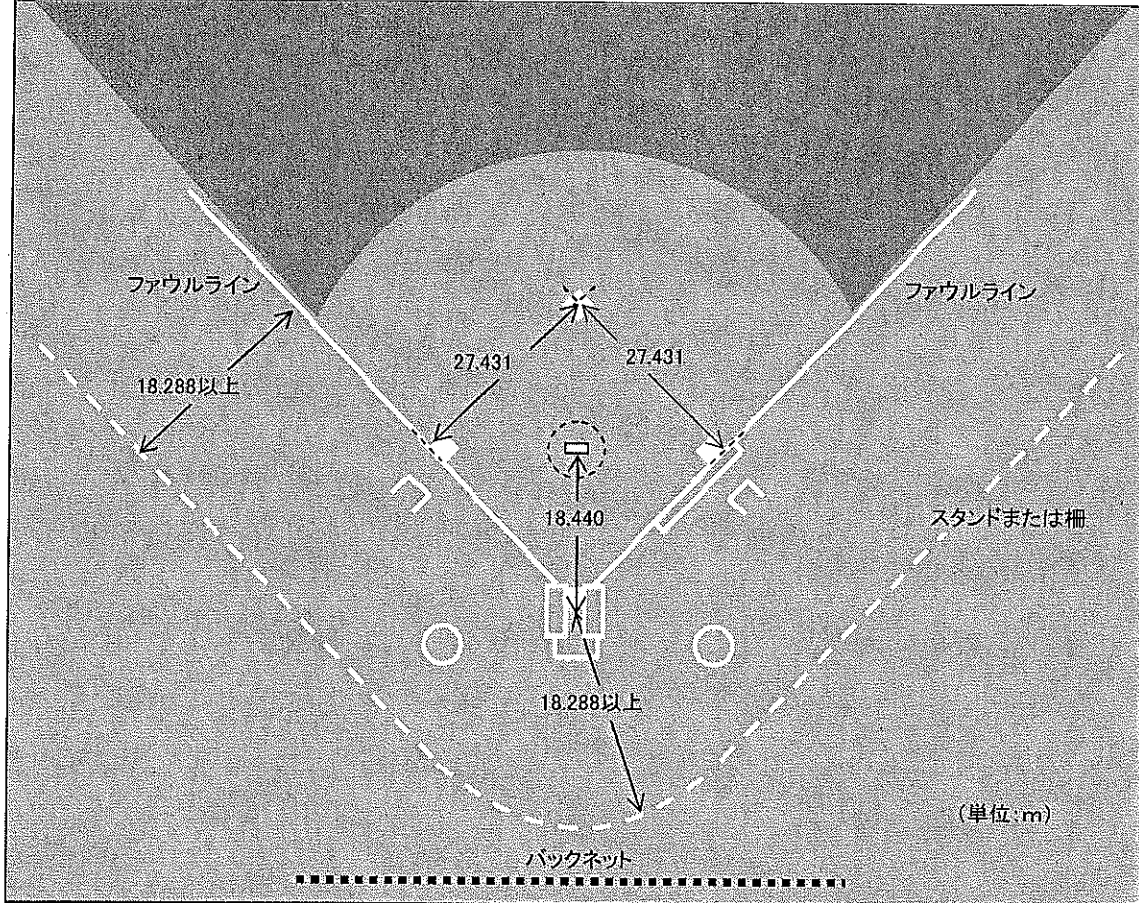
- 競技会場に近接した練習会場が3会場以上確保できる。
- 各チームのベンチをセットするため、中央に2m幅の通路及び周りに最低2m幅の通路を取ることができる体育館が望ましい。

(先催県の事例)

基準	規定の野球場5面	摘要	2会場地以上に分かれていてもよい。 2会場地以上に分かれる場合は6面とする。
----	----------	----	---

基準の主な内容

野球場は、次のとおりとする。



○本塁からバックストップまでの距離、塁線からファウルグラウンドにあるフェンス、スタンドまたはプレイの妨げになる施設までの距離は、18.288m以上を必要とする。

○本塁よりフェアグラウンドにあるフェンス、スタンドまたはプレイの妨げになる施設までの距離は76.199m以上を必要とするが、外野の両翼は、97.534m以上、中堅は121.918m以上あることが優先して望まれる。

〔日本野球規則委員会「公認野球規則」から抜粋〕

（配慮すべき事項）

- 規定の野球場6面が望ましい。
- 両翼90m以上、中堅110m以上が望ましい。
- ナイター照明があることが望ましい。
- 安全上フェンス等にラバーを設置することが望ましい。

（先催県の事例）

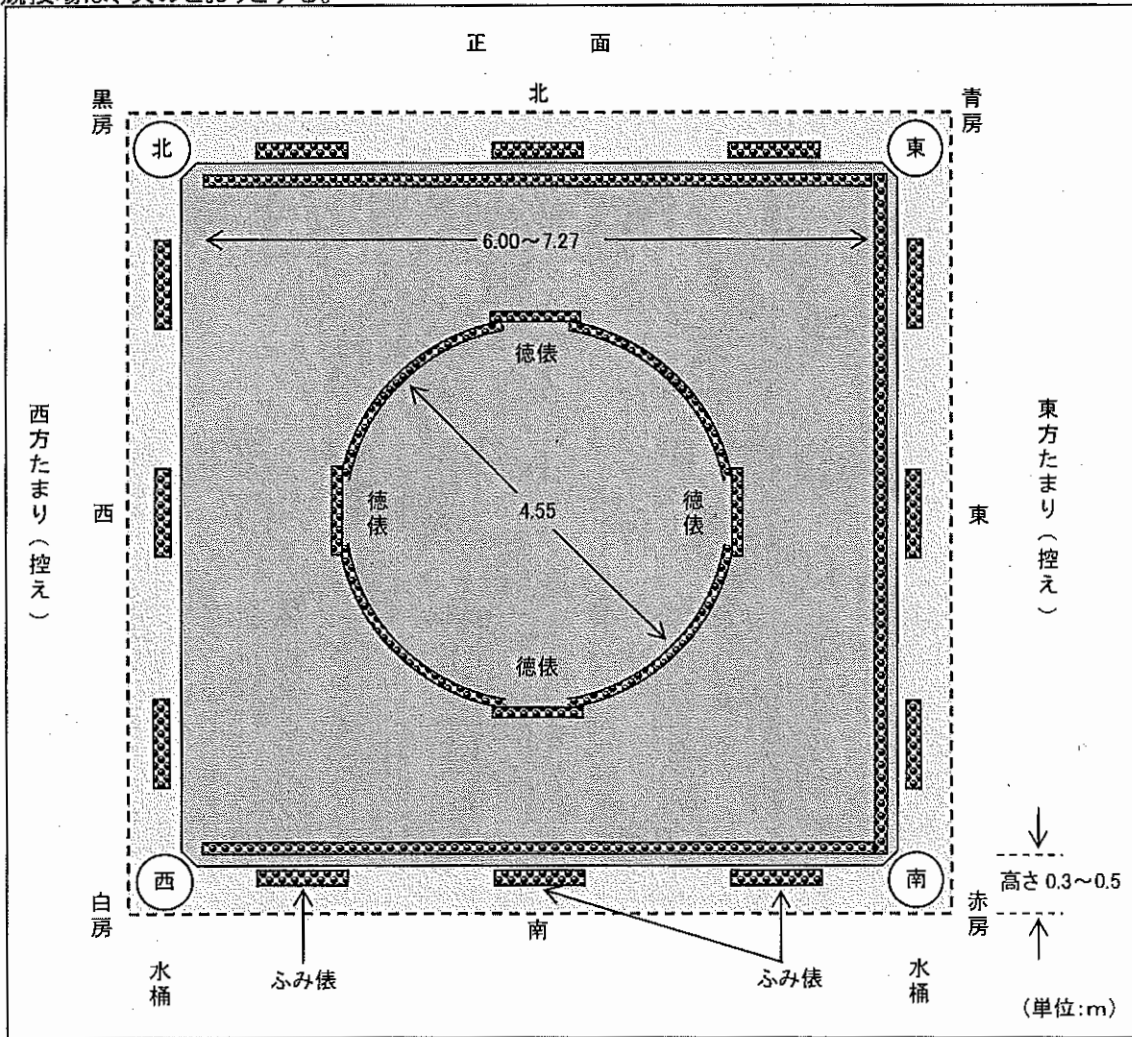
競技名 相 撲

競技番号 19

基準	規定の競技場 1	摘要	
----	----------	----	--

基準の主な内容

競技場は、次のとおりとする。



- 土俵は盛土俵とし、土俵の表面は一辺600cm以上727cm以下の正方形とする。
- 土俵の高さは、30cmから50cmとする。
- 勝負俵は、土俵表面の対角線の交点を中心とした直径455cmの円の外側に埋めた小俵とする。勝負俵に使用する小俵の数は24個とする。そのうち4個は徳俵とする。
- 土俵の上には屋根(特設の枠組みのものを含む。)をつつす。

〔(公財)日本相撲連盟「土俵規程」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

- 競技場は屋内であることが望ましい。
- 土俵構築には、荒木田土を使用することが望ましい。
- 練習土俵は、6面以上必要で、テントで覆うことが望ましい。

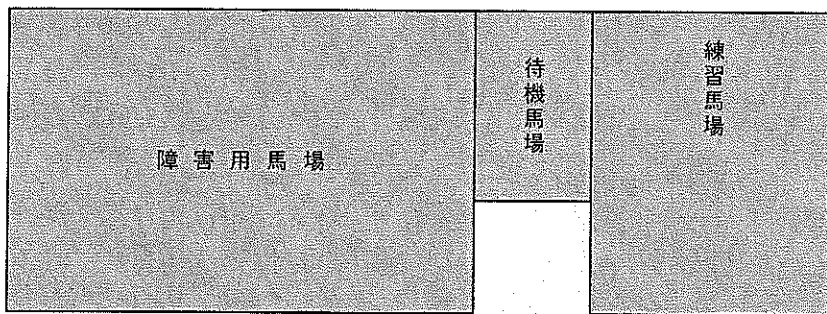
(先催県の事例)

基準	障害馬術競技場1面 70m×50m (楕円形でも可) 別途ダービーコースを隣接する。 障害練習場2面(うち1面は競技場隣接) 馬場馬術競技場1面 90m×50m 馬場馬術練習場2面(うち1面は隣接) 厩舎227馬房(1馬房 3m×3m) 隔離厩舎2馬房(1馬房 4m×4m) ホースマネージャー宿舎 47名収容 (各県1名男女別)	摘要	各施設は仮設並びにリースでもよい。
----	--	----	-------------------

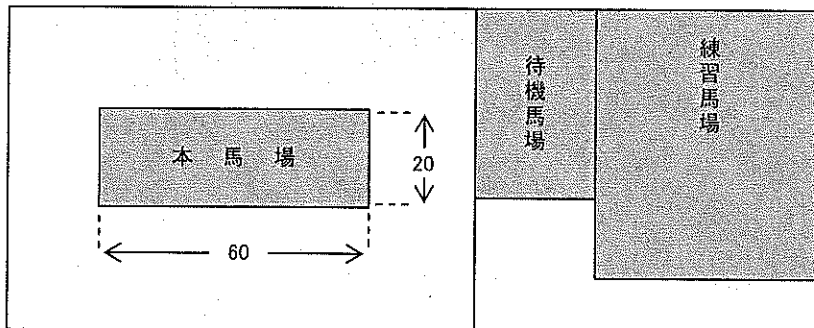
基 準 の 主 な 内 容

競技場は、基本的には次のとおりとする。

(1)障害用馬場の例



(2)馬場馬術用馬場の例



(単位:m)

〔(公社)日本馬術連盟「日本馬術競技会規程」から抜粋〕

(配慮すべき事項)

- 競技に必要な広さ(4ha程度)を確保できること。(隣接する場所を利用することも可)
- 馬場の配置については、一部国際規定その他に定められた以外は、特別な制限はない。
- 候補地の地形、傾斜度により面積、形、配置等を臨機に応用変更して設計することができる。
- 上記の他、馬運車駐車場、家畜衛生防疫舎、厩舎、馬洗場等が必要である。

(先催県の事例)